

## 室内環境との接点

瀬戸口 泰弘

フィガロ技研株式会社  
〒562-8505 大阪府箕面市船場西1-5-11

約25年前私自身ガスセンサメーカーであるフィガロ技研に入社し、社名の由来でもある“何でも屋のフィガロ”という精神に基づき、主にガスセンサを使ったアプリケーションの開発及び商品開発、製造技術、営業技術など、多岐に渡る職務を経験してきました。

業務としてガスセンサを搭載した家庭用空気清浄機のタバコやペット臭検知用『においセンサ』の開発や、センサ信号を利用した空気清浄機の制御開発などに携わっていたことから室内空気を計るという点では元々関心がありましたが、その当時はシックハウスやVOCという言葉は聞きかじっていましたが、非常に低濃度で、センサで本当に計れるのだろうかというぐらいのレベルでした。

しかし、約10年前にあるきっかけで室内環境との縁ができ、その後色々な先生らにご指導ご助言をいただき今日に到っております。まずはその原点の部分から話をさせていただければと思います。

それは約10年前に奇遇な再会で、たまたま別件でお付き合いのあった会社に伺ったときに、私を室内環境に引き寄せた方もたまたまその日にその会社に遊びがてら(?)来られていました。その方とはさらに約10年前にあるガス会社でガスの付臭成分を検知する装置開発で一緒したのですが、その後お互い連絡もとらずじまいでおったのですが、その日に約10年振りに御会いし、「半導体センサでVOCを計れるものは無いか探しているんだ」ということから色々議論を始めたのがきっかけでした。その方はもともと分析装置の会社に勤務されていた時に化学発光法を利用したホルムアルデヒド測定器と一緒に研究されておられた現日本大学の松村年朗先生とお知り合いだった関係から先生をご紹介いただき、先生らと

もども開発にも参画していただき、色々苦難を乗り越えて出来上がったのがパーソナル用TVOCモニター「FTVR-01」という製品です。もしその方との再会がなかったらこの製品は生まれていなかったかもしれないと言っても過言ではありません。

TVOCの簡易モニターを開発していて一番気をつけていたのが、実際に化学過敏症の患者さんらにも装着してモニターしていただいたりしましたが、数値の独り歩きでした。トレンドを見たり、連続モニターとしての価値の有効性とは逆に数値の絶対値の議論には使われたらとひやひやしておりました。簡易モニタで得られた結果をどのように伝えていくのがいいのか、啓蒙の仕方など今後の課題かと思っております。

我々の研究開発は簡便に連続で計り室内空気の場合や時間変化を“見える化”することで今までとは違った視点で変化をとられることが出来ないかと考えており、日常の中で生まれる縁を感じとれる感性のように、室内空気の変化をセンサデータから感じとれる人間にならないといけないかと思っております。

最後に本書面では書ききれないぐらい諸先生方らにご指導ご助言またハッパもかけられておりますが、これもいろんなご縁の賜物と思っております。

今後も感性を大事にしながらも誰にでも理解してもらえる視点で室内環境学会の発展に少しでも貢献できればと考えております。